



# からしだね

2018年10月号  
(542号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikedachurch/>



叙階50周年記念ミサ後の祝賀会でご挨拶される國井健宏神父様 2014年6月

## 本号の記事の主題など

國井健宏神父様のご帰天

國井神父に出会えて幸せでした

染野治雄神父

國井神父を悼む

第23主日ミサにおける説教 ノノイ・プラザ神父

平和旬間に平和祈願ミサ

デニス神父様が池田教会に帰る

ドレミの会バーベキュー・キャンプ

10月の教会カレンダーへの追加

日曜学校の夏季キャンプ

支援先紹介(2) 東条湖の家の歩み(寄稿)

大人の日曜学校だより

みんなの談話室

わが教会のバーブシュカ

わたしの好きな映画(2)

俳句

## アウグスティヌス國井健宏神父様ご帰天



國井健宏神父様が2018年8月19日にご帰天になりました。85歳のご生涯でした。

國井健宏神父様は1932年に鳥取県で生まれ、1956年に御受難会修道会へ入会、1964年に日本人初の御受難会司祭として叙階されました。その後御受難修道会東京修道院院長、上智大学神学部教授、日本カトリック教会の典礼委員会委員などなどの役職を歴任なさり、池田教会では、叙階後には助任司祭、1988年から1995年までは第7代主任司祭を務められました。

8月22日午後7時から、山内十束神父様の司式により通夜が営まれました。國井神父様から教えを受けた人々、國井神父様をしたう人たちが大勢集い、イエス様のもとへ旅立たれた國井神父様のために祈りました。山内神父様はお説教で、御受難修道会にとって大いなる存在であった國井神父様は、わかりやすく、しかも新鮮な表現で、キリストがわたしたちの中に生きておられること

を伝えてこられた方であると説かれました。そして山内神父様や同世代の神父様方を愛情たっぷりにしごき、育ててくださった恩人である、と感謝の言葉を述べられました。

23日12時からの葬儀ミサは、染野治雄神父様の司式で執り行われました。各方面からの神父様や修道士の方々、遠方から駆けつけた信徒が多数ご参列になったミサで、染野神父様は、國井神父様へ尽きせぬ感謝と敬意をこめたお説教(次ページに全文掲載)をなさいました。畠基幸神父様も最後に挨拶を述べられ、先生であり、友であった國井神父様、人生を楽しむことを知っておられた國井神父様、祈りと典礼を何よりも大切になされた國井神父様について語られました。

最後に御受難修道会の方々が柩を取り囲み、万感を込めてサルベ・レジーナを歌い、その悲しくも美しい歌声が聖堂内に響き渡りました。



お通夜で故國井健宏神父の棺に献花を捧げる方々に応接する山内神父とノイ神父。



告別式の後で故國井健宏神父の棺を送り出す御受難修道会の司祭と修道士の方々。

## 國井神父に出会えて幸せでした

御受難修道会 染野治雄司祭

國井神父様が天國へ召されました。  
神と教会にささげた85年の生涯でした。

5、6年前、あるいはもう少し前からだったかもしれませんが、ほとんど病氣知らずだった國井神父様が、疲れやすく、体調がすぐれないとうたえることが多くなりました。診察してみると、気管のあたりに腫瘍があるが、それが良性なのか悪性なのかどうもはっきりしない、そんな状態がしばらく続いてきました。そして2年前ぐらい前でしょうか、慶応病院で治療を始めてからは徐々に体調も回復してきて、わたしたちも何となく安心していたところでした。

それと同じころ、日本の御受難会にもおおきな変化がめぐってきました。松本神父様が管区長だったときです。すなわち、会員の高齢化が進む中、将来へ向けてわたしたちの使徒職・生活の在り方を見直そうということになり、その流れのなかでの話し合いの結果、東京の修道院を手ばなして、売布に新しい修道院を建てるプロジェクトが立ち上がりました。そのプロジェクトを実行するにあたり、國井神父様には昔の不動産の契約書類を探してもらったり、あるいは、土地を売却するために近隣の方への挨拶や説明をお願いするなど、健康的に万全でなかったにもかかわらず大切な役割を負っていただくことになりました。國井神父様にとって、住み慣れた東京を離れて生活の場を移すことは気持ち的にも負担が大きかったと思います。それでも御受難会を次の世代へと続けていくために、本当に大切な働きをしていただきました。売布の本部に立派な修道院が完成しましたが、これには國井神父様の大きな貢献があったことを忘れてはならないでしょう。

じっさい御受難会最初の日本人会員として、日本の宣教のはじめの時代から発展のときをへて、そして新しく変わってゆく今まで、日本の御受難会はずっと神父様に頼り続けてきました。そし



て、ことし2月に東京から古巣の売布へ移ってからも、勉強会をはじめするなど意欲をもって新しい生活に臨もうとしていた、そんなときに、病氣が急激に進んでしまいました。

キリストの死と復活を伝えるために、御受難会のために、そして日本の教会全体のためにも、最初から最後まで身をささげてくださった生涯でした。

そんな國井神父様をどのような言葉で語ればよいのか。10人いれば、10人の語る言葉があるでしょうが、少しだけ私自身のお話しをさせていただければ、わたしが國井神父様に初めて会ったのが、1995年東京の修道院・みことばの家でした。わたしが共住者として居候生活をさせてもらっていたことです。そんなときに國井神父様が大阪から引越して来られました。すでに髪の毛は真っ白でしたが、体も大きいし声もでかい。英語、ドイツ語など語学に堪能、スポーツ万能で、音楽や芸術などの素養もゆたか。そして典礼の専門家として上智大学神学部教授という、すごい神父様が来たものだなあ、というのが第一印象でした。

ご存知のとおり、國井神父様は第二バチカン公会議の時代、また戦後の日本の教会の(第一の宣教をキリシタンの時代、第二の宣教を明治以降の時代とすれば)再々宣教の時代を30代の若さで引っ張ってきたリーダーの一人でした。日本の教

会全体にとって、その仕事、貢献を数え上げれば語りつくせないのではないか、そういう司祭でした。

そのいっぽうで、共同体の生活をとても大切にするととても親しみやすい人柄でもありました。これは、多分アメリカの修道院での生活の体験が大きかったと思います。共に祈り、学び、働き、そして食事やリクリエーションをともに楽しむ。詩編に「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」(詩編133)という歌があります。テゼの聖歌などでも歌われますのでご存知でしょう。國井神父様が好んで語り歌った詩編です。そういう、みな兄弟・姉妹として共同体を生きる信仰生活を理想とした、とても人間味にあふれた神父様の思いが思い出されます。わたしも、ほんとうに楽しく共住生活をさせてもらうことができました。

もう一つのエピソードをお話しすれば、こんなことが記憶に残っています。ある勉強会するとき、お茶を飲みながらの話の中で、ある人が國井神父様に、もし司祭にならなかつたら神父様はどんな仕事をしていたと思いますか、と質問したのです。そのとき、神父様は、もし司祭になっていなければ医者(外科医?)になっていたか、そうでなければオペラ(クラシックの)の歌手になっていたかもしれないなあ、と答えられました。なるほどなあと思いました。じっさい、歌については東京バツハ合唱団の団員として玄人はだしの実力をもっていた人でしたし、また人間の魂の救済ということにおいては、多くの人の心のお医者さんであったといえましょう。医者であり、歌手でもあり、そして司祭でもある。当人が望んだこと、みんな実現しています。もちろん、そういう才能は神さまからいただいたものにちがいませんが、そういう多方面の才能を存分に生かすことができた、信仰と霊性と実力かねそなえた、まさにスーパー司祭と呼んでよい神父様だったと思うのです。じっさい、第二バチカン公会議前後というのは、日本にはそう呼ばれるに

ふさわしい神父様たちにめぐまれていた時代でした。そして、そういう神父様たちたちが中心になって日本の教会の再々宣教の土台を築いていったといえます。國井神父様はそんな司祭の一人として記憶に刻まれるでしょう。もちろん、人知れぬ苦労も多かったにちがいませんが、そういう時代に働くことができたことは、司祭冥利につきる人生だったと思います。そしてそれは、日本のカトリック教会にとっても幸せなことでした。

そんな國井神父様が天に召されて、スーパー司祭に頼る時代は終わりつつあるのかな、と個人的には思います。わたしたちは國井神父さまを頼りにしてきて、少し頼りすぎたかもしれません。これからは、というより、すでに信徒も司祭も力をあわせて教会を支え、次の世代を育て、信仰を伝えてゆく時代に入っています。一人ひとりが与えられた能力と役割を果たして一つの目的地に向かって進むことができるように、みんなの心を一つにまとめてゆくことが司祭の役割としてより大切になるでしょうし、そういう時代に入っていると思います。國井神父様自身もそういう教会のありかた、一人ひとりが与えられた役割を実行してつくりあげてゆく、キリストの体としての教会の姿を望み、それを自分の役割として自覚しておられました。

このような國井神父様、そして國井神父様たちが据えられた土台のうえに生きた石となって教会をつくりあげてゆく。それが残された者の役割ですし、國井神父様の望みでもありましょう。

神父様、ありがとうございました。國井神父様を遣わしてくださった神さまに感謝します。天国で、どうかゆっくりお休みください。國井神父様の残した仕事は、しっかりと私たちが引き受けますから、天国からわたしたちを見守り、私たちのために祈りしてください。國井神父様に出会えてわたしたちは本当に幸せでした。國井神父様、本当にありがとうございました。

## 國井神父を悼む

お願いします。國井神父様は今入門講座の途中です。待っている人たちが居ます。もう一度回復の……との祈りは聞き入れられること無く、駆け上がるように帰天されてしまいました。

國井神父の入門講座が始まると聞いた時、直ぐに参加させて頂きました。30年ほど前國井神父の聖書講座で受けた感銘をもう一度味わいたかったからです。これが最後かも、との思いを抱きながら。

天地創造から始まったその講座は壮大な神のご計画のもと繰り広げられる旧約の世界から新約のイエス様のご生誕、生涯、弟子たちの働き迄、年代別に随所に譬え話の分かりやすい解説が入り、教材、資料等を用意されることもなく聖書学者としての豊富な知識と確たる信仰に基づいた物語とも思わせる独特の語り口調に、聞いている者はあたかもその場にいるような臨場感のもといつか聖書の世界に引きずり込まれてしまう素晴らしいものでした。砂漠の輝く星のもと天幕で語り合ったベドウインの宇宙観、シナイ山の夜明け、ガリラヤ湖畔に立った時等の体験談も深く心に残っています。分かりにくい箇所は私たちの程度に合わせた平易な言葉で説いて下さり、なるほどと納得出来るものでした。今回最後の司牧として、入門講座を始められ精力的に伝えようとしておられたと思いますが、

思っていたより病の進行が早かったのでしょうか。とても残念です。國井lossの衝撃は大きく私の中では未だに消化できていません。

國井神父司式のミサは「私の朗読の時は聖書と典礼は見ないで言葉を聴いて下さい。」と言われるのが常で、厳格で少々怖いところはあり緊張しましたが、説教は分かりやすく楽しみでした。ブラザー数名と隠岐の島の私あばら家へ黙想会に来られた時みんなで歌って下さった、キリエ・エレイソンの歌声の素晴らしさは忘れることが出来ません。そして1965年の洗礼、結婚と秘跡を授けて頂き、その後も私にとっては人生の師として畏敬、親愛の入り混じった偉大な存在の方でした。久しぶりにお会いすると「元気にしてる？子どもたちはどうや？」「大きくなったらなったで色々」と答えると「そうかあ、そうやろな、色々な事起きるからなあ」と言って頂くだけで、自分の悩んでいたことが小さなことに思え、そうや、神様にお任せしたらいいんや、と安心させる不思議な力を持った方でした。病院で面会して何時ものように祝福を受け帰ろうとすると「ああ～日本海の冷たい海に浸かって透き通ったイカソーメンが食べたい」「行きましょう、お元氣になられて」が最後の会話となってしまいました。日本海の海に浸って頂きたかった！透明なピチピチしたイカそうめん食べて頂きたかった！

今まで本当に有難うございました。

林

## 故國井健宏司祭の略歴

創立25周年記念誌、創立50周年記念誌、葬儀ミサ(8/23)において配布されたカードを参照。

1932.12.26	鳥取県にて出生
1956.04.01	御受難修道会に入会
1964.03.20	御受難修道会に邦人として初めて司祭に叙階
1965.03～1975	池田カトリック教会助任司祭
1967～1968	ドイツ典礼研究会(トリア)に留学
1988.09～1995.03	池田カトリック教会第7代主任司祭
1989.09	池田カトリック教会にて叙階25周年祝賀を受ける
2014.06	池田カトリック教会にて叙階50周年祝賀を受ける
1969～	日本カトリック典礼委員会委員、 EAPI(マニラ)講師、 CTU(シカゴ合同神学校)客員教授、 上智大学神学部教授、 シカゴ管区日本分区長、 東京修道院長を歴任
2018.08.19	帰天、享年85歳



叙階直後に初ミサのために聖堂へ向かう。右端が  
國井神父。(1964.3)



聖堂が献堂された(1965.12)後に司式される國井  
助任司祭。



司祭館と信徒会館を兼ねた日本家屋から独立の  
2棟の着工に先立って地鎮祭を行う國井健宏・  
第7代池田教会主任司祭。(1991.6)



聖地巡礼で死海に面するブドウの木の前に立つ  
國井神父と同行された方々。(1996.3)



カトリック池田教会50周年記念式で並ぶ中央  
の池長大阪大司教、右へ國井神父、デニス主  
任司祭、左へ松本神父、畠神父、ウオード神  
父。(2005.5)



叙階50周年祝賀式で教皇様のお祝い状を松  
本神父様より受け取る國井神父。(2014.6)

## 第23主日(9月9日)ミサの説教 司式者 ノイ・プラザ 主任司祭

イザヤ 35:4~7a、ヤコブ 2:1~5、マルコ 7:31~37

皆さんの中で、耳の聞こえない人が居りますか？手をあげて戴けますか。みなさん聞こえているようですね。勿論、どなたか手を上げられていたらそれは聞こえる証です。けれども、中には少し聞こえづらい方もいるのではないのでしょうか。わたしも少し聞こえづらいです。わたしの右の耳は聞こえますが、左の耳は聞こえません。左の耳は10%ぐらいの話しか拾うことができません。だから、混雑した騒がしい場所では人々が同時に話す時は、他の人が言っているのを聞くのはかなり難しいです。

今なら良く分かりますが、子供のころにわたしたちが大きな声で話していると、母が何故わたしたちに注意したか。母はいつも「あなたたちは聞こえない人のように話していますよ」と。みなさんは気づいているかも知れませんが、聞こえない人は聞こえにくいので、大きな声で話す傾向があります。また、聞こえない人は話しかける人が聞こえるように大きな声で話さねばいけないことを知っているので、周りの人に聞こえてしまうので恥ずかしくります。

そして、生まれつき聞こえないとその人は聞こえないだけでなく、話せないのです。何故なら、一度も誰かが話すことが聞こえなかったら、この人はどうやって話すことを学習できるでしょうか？

今日の福音の中の、耳も聞こえず、口の利けない人は、このような困難を抱えていたのです。耳が聞こえず、口の利けないこの異邦人の人は、聞くことも話すこともできず、考えや意見、好みを分かち合うことができませんでした。このような中で、人は日常の社会的な関わりからは孤立してしまいました。だから、必然的にその人は除外されたと感じていました。

ウオード神父様も、今、耳が聞こえ難くなっています。だから、わたしが話す時、ウオード神父様が聞き取れなかったら、わたしはボードに言葉を書きます。ウオード神父様が助けがいないと感じられないように。

今日の福音では、イエス様はわたしが他にしているよりも遥かに偉大なことをしてくださいました。イエス様はその人だけを群衆の中から外に連れ出しました。この耳が聞こえず、口が利けない人がその屈辱的な沈黙の時間が終わりそうだと感じた時、どのようだったかを想像してみてください。この

人にどんな思いが起こったでしょう。希望の始まりだったでしょうか？不確かさや困惑、恐れに閉ざされ、引き戻された後に、信頼するような思いが生まれたでしょうか？

そこで、イエス様はその人と正面から向き合っていて、耳と口が開くように願って、当時の癒し的手段と思われる唾を付けてその人の耳と舌に触れられました。そして、その様になったのです。そして、イエス様の手が触れた時、そしてイエス様の力強い「開け」と言う言葉を聞いた時、この耳の聞こえない人の耳が開き、舌のもつれが解けたのです。預言者イザヤが預言していたように、神の救いの力がこの耳が聞こえず、口が利けなかった人に届き、その命を音と言葉で満たしたのです。

わたしたちは身体的には耳が聞こえない訳でもなく、口がきけない訳ではないかもしれませんが。けれども、霊的に耳が聞こえず、口が利けないということもあります。確かに、霊的な意味で聞こえないということがあります。

聖アウグスチヌスは「告白」という本の中で神様へ向け次のように言っています。

あなたはわたしを呼ばれました。あなたはわたしに大声で叫ばれました。そして、あなたはわたしの聞こえない耳を開かれました。あなたはあたしの上に輝きました。あなたの輝きがわたしを覆いました。あなたは私の見えない眼を開かれました。あなたはあなたの息吹を私に注ぎました。わたしは息をつき、わたしはあなたに入ります。わたしはあなたを味わいます。そして、わたしはあなたに飢え、あなたに渴きます。あなたはわたしに触れ、わたしはあなたの平和に抱かれます。

毎日、主は癒そうとして、わたしたちに触れてください。主は、いつも、わたしたちの耳を開き、舌のもつれを解こうとしてくださいます。主は、聖書を通して、わたしたちに話しかけてくださいます。主はわたしたちの舌が信仰と誠実さの内に、主のことばのこだま、エコー、となることを望んでおられます。わたしたちの命の内に、いつも、主を喜んで迎えることができるように祈りましょう。

暫く、沈黙して黙想しましょう。

(音声録音の書き起こしは広報委員会)

## デニス神父様が池田教会に帰る

畠基幸神父様が8月4日、デニス神父様のご遺骨を池田教会へ持ち帰られました。

2018年1月15日にケンタッキー州レイビルで  
ご帰天になったデニス神父様のご遺体は、火葬  
に付され、ご遺骨はレイビルの修道院に安置され  
ていました。7月に畠神父様はレイビルへ赴かれ、  
ご遺骨をデニス神父様のご遺志に従い、母上の  
眠っておられるセントルイスのカルバリー墓地まで  
運ばれました。暑さの厳しい広大な墓地の一画  
で、畠神父様はブラザー2人とともに祈りを捧げ、  
お母様の傍らにご遺骨を埋葬されました。宣教師  
として日本のために生涯を捧げた兄をうやまう、デ  
ニス神父様の妹メリー・ワールドさんのお計らい  
で、畠神父様は分骨を日本へ大切に持って帰ら  
れました。しばらくは池田教会にとどまっていた  
き、のちに宝塚黙想の家で納骨される予定です。

デニス神父様、お帰りなさい。デニス神父様の  
育てた池田教会がこれからも信仰を深め、成長を  
遂げていきますように。



帰られたデニス神  
父の骨箱（納骨  
室、8/5～）



セントルイスのカル  
バリー墓地のマク  
ゴワン家の墓

## ドレミの会バーベキュー・キャンプ 8/11

今年の夏は誰もがびっくりするような暑さがつ  
づきました。そんな中、ドレミの会は元気よく恒例  
の「バーベキュー」に行きました。

能勢の山は、がけ崩れの後も生々しい場所も  
ありましたが、無事「ダイヘン愛の郷」に到着！ノ  
ノイ神父さま、日生中央教会からは評議委員長  
の竹口さんをはじめ4名の方が応援に参加してく  
ださり、総勢33名です。

4つの火囲み、ノノイ神父様のお祈りから始まり  
ました。お肉や野菜をたくさん食べ、ちよつとビール  
も！その後はスイカ割、リズム遊びをして楽しい一  
日を過ごしました。最後にノノイ神父様が、皆に  
按手しながら、賛美の歌を英語で歌ってくださ  
いました。静かな山の中に美しい声が響き感動的  
でした。皆でアヴェ・マリアをとなえました。おぼつか  
ない手で、十字をきる様子がほほえましかったです。

今日のバーベキューがいろいろな方の協力によ  
って無事に終わったことへの感謝をこめ、山に  
向かって「ありがとう！」と大きな声で言って、帰  
りの車に乗り込みました。神に感謝！！

ドレミの会

## 10月の教会カレンダーへの追加

10月4、11、18、25日(木) 10:30

聖書百週間

10月12日、26日(金) 14:00～16:00

福音書を学ぶ会

## 10月のガラスケースのことば

主の恵みの力は弱さの中でこそ十分発揮される

コリント 第二 12 - 9

## 楽しい思い出を作った 日曜学校の夏季キャンプ

8月7日(火)から8日(水)に猪名川キャンプ場で神父様方や、日曜学校の先生たち、協力者の指導とお世話により日曜学校の一泊二日夏季キャンプがおこなわれました。

### 参加した子供たちの感想

キャンプに行き行って楽しかったです。水遊びの時、水鉄砲で、まず1班に勝ってから、2班と一対一で闘ったのが面白かったです。花火の時、打ち上げ花火の音がすごかったです。またキャンプに行きたいです。  
I.M.

打ち上げ花火の音にびっくりしたけど、とてもきれいで楽しかったです。寝るときは少し寂しかったけど、また来年もキャンプに参加したいと思います。  
K.K.

キャンプはとても楽しかったです。特に面白かったのは、花火と水鉄砲とスイカ割りです。  
S.T.

日曜学校のキャンプは楽しかったです。一番楽しかったのはオリエンテーリングです。オリエンテーリングがすきなのはいろいろな遊びが遊べるからです。来年も参加したいです。  
A.D.

花火と水遊びがとても楽しかったです。キャンプを通して、いろんな人と出会い一緒に楽しく遊んだりして、神さまのお恵みをたくさんもらいました。  
H.K.

日曜学校のキャンプは、はじめてです。とても楽しかったです。なかでも、クラフト作りが一番楽しかったです。自分のオリジナルのクラフトが作れるからです。そして、また参加したいです。  
A.D.

楽しいことはたくさんあったけれど一番楽しかったのはオリエンテーリングです。その中でも一番面白かったのはノイ神父様とのじゃんけんです。最下位だったけれど班全員で力を合わせてできたことが嬉しかったです。来年はキャンプに行けるかどうかかわからないけど一人でも多くの人と一緒に行けたらいいと思います。  
S.M.

### 青年からの感想

8/7～8の一泊二日、青年として夏季キャンプに参加させて頂きました。去年は残念ながら台風で中止となってしまったので、今年のキャンプをとても楽しみにしていました。今年は天気にも恵まれ、大きい怪我や病気もなく、最高のキャンプになったのではないかなと思います。また、事前の計画や当日の進行だけでなく、子供達を楽しませる工夫や熱中症の対策なども、時間を割いて考えて下さっている大人のスタッフの方々を見て、改めて教会の繋がりの素晴らしさを感じることができました。短い時間でしたが、元気な小中学生と同じ時間を過ごし、とても有意義な二日間になりました。私は来年から社会人になるため、参加できるかは難しいですが、これを読んで中高生、大学生、青年の皆さんに是非参加して頂きたいです！ありがとうございました！  
N.N.

### キャンプ担当から

8/7から8/8まで日生中央教会と一緒にキャンプに行ってきました。参加者は小学生11人、中高生8人、青年10人、大人15人の計44人です。中村神父様、ノイ神父様、染野神父様も来て宿泊して下さいました。畠神父様は7日の晩ごはんから就寝前まで子供たちと一緒に過ぎて下さいました。今年は記録的な猛暑続きで参加者の体調管理に気を配るのに色々考えましたが、台風がそれた影響なのか2日間とも過ごしやすい暑さでした。来年もキャンプしますので、沢山のご参加お待ちしております。



## 支援先紹介(2)

## 社会活動委員会

## 東条湖の家の歩み

東条湖の家は、前代表の伊藤輝男さん御夫妻の『家族や援助者を持たない知的ハンディを負う方々のために新しい家庭を創りたい』という思いから1990年に兵庫県加東市に誕生しました。

様々な理由によって家族と離別した天涯孤独な状況の中にあるハンディの仲間とアシスタントが共同生活を送るなかで、心の傷を癒し再び自分を取り戻し、互いに成長していけることを活動の目的としています。これまでに迎えたハンディの仲間は9名になり、2002年NPO法人「エヌ・ピー・オー ノア」を発足、2005年には川西市けやき坂に第二のホーム「けやき坂の家」が誕生しました。

現在は5名の仲間がアシスタントの皆さんのサポートを受けながら、家庭的な環境の中で、共同生活を送っています。今年3月から伊藤さんより私松平が代表理事のバトンを引き継ぐことになりました。20年間ホームのアシスタントとしての経験以外は何も持たない自分にはとても務まるとは思えず何度もお断りしていましたが、日々お祈りしていく中で「わたしについてきなさい」という主の呼びかけに従う決心をすることが出来ました。

この家に暮らす仲間達は、幸せに愛されてきた経験を持つ人はいません。重い障害を負いながら、家族や社会に排斥されてきた人生は想像を絶する地獄のような日々だったでしょう。そのような仲間たちがこの家と出逢い「あなたは大切な人。あなたがいることが私達の喜び」という愛情を受けることで暗く不安に満ちた顔に笑顔が戻り自分自身を取り戻していく様を見てこのような小さな共同体の必要性を強く感じてきました。「この最も小さい者の一人にしたのは私にしてくれたことなのである」(マタイ福音書25章)主の御言葉から生まれたこの家がこれからも続いていくよう出来ることを頑張っていきたいと思っています。二つの家は週に3~4回、お互いを行き来しながら日中活動を行っています。

自然豊かな東条湖の家でお散歩をしたり、食材の買い物やお料理をしたり、日々の生活を楽しみながら参加しています。メンバーは障害の重い方が殆どですが、それでも出来る作業を少しずつ行い完成した手芸品をバザーなどで販売することで共に働き糧を得る喜びを感じてもらえるよう努めています。

また、前代表の伊藤さん御夫妻が始められた収益事業のジャム作りも2年前より現代表の松平が

教わりながら再スタートすることが出来ました。1人でも多くの方にNPOノアの活動を知って頂き、ご支援いただくための橋渡しとなる大切なジャムですので、心を込めて作っています。また昨年度より、パスタやトマト缶等のイタリアン食材なども支援者の方のご協力によりバザーで販売させて頂けることになりました。

池田教会の皆さまには東条湖の家がスタートした当初から信者の村嶋さんご夫妻を通じてドレミの会への参加や教会のバザーなどで永い間大変お世話になってきました。

いつも温かくハンディの仲間達を迎え接して下さい、心より感謝申し上げます。これからもNPOノア、東条湖の家・けやき坂の家を応援して頂けたら幸いです。

NPOノア 代表理事 松平 優子

## 大人の日曜学校だより

7/22 福音の分かち合い

「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。」 マルコ福音書 6:34

この日の参加者の間でも、やはりこの箇所(イエスは舟から上がり、大勢の~)がとても胸に響いたようです。飼い主のいない羊のように、私たちは人生に明確な展望を持たずに、目の前のたくさんのことに振り回されてばかりいます。その意味では、大人の日曜学校でも、何か立派なことを言って聞かせようという人はだれもいません。その点、皆、謙虚だとも言えますが、しかし裏を返せば、自信のなさの顕れとも受け取れます。イエス様はそのことを見透かして「飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ」そうおっしゃったのではないかな? そう今回、一同、意見が合いました。

そういう中で、自分自身の迷い、弱さやいたらんさを口にすることができたとき、初めて「ほっとした」という方もいらっしゃいます。ですが、これは大事なことです。とかく、だれしも自分の弱味を見せれない世の中。もしかすると、教会も気をつけるべきことかも知れません。私は「こんど大人の日曜学校があるから…」そうお誘いするとき、そんな思いをそっとメッセージに添えることがあります。つまり、たとえどんな自分であっても「それが許される場所だということ」をです。

研修委員会

## みんなの談話室

### わが教会のバプシュカ

大山

「バプシュカ」というのは、ロシア語で「おばあさん」の意味です。

数年間、毎朝ミサに与っていました。ところが突然、がんの宣告を受けて、1年半くらい休みました。体がやっと動くようになって、また朝ミサに。杖をついてポトポトと、あえぎながら、健常時の一倍半くらいの時間をかけて教会へ。

朝ミサの様子は、殆ど変わっていませんでした。元気一杯の、3人のおばあさんが、それぞれ分担を守って、整然とミサに参加。そして他教会の方も参加。この方は典礼の超ベテランで、おばあさんたちをしっかりとリード、ミサは前よりも充実しているようでした。

ふと教皇庁の文書を思い出しました。

『ソビエトが共産主義を捨てて、ロシアとなったとき、70年も禁じられていたキリスト教(ロシア正教)が、急速に復活しました。これは「バプシュカ」(ロシア語で「おばあさん」の意)と呼ばれていたロシアのおばあさんたちが、役人の目を盗んで密かに信仰を守っていたからです。(彼女達が宗教の雪解けを機に復活させたのです)』。(教皇庁信徒評議会「高齢者の尊厳と使命」36頁あたり。大意を分かりやすくするために、言葉を補って引用しています)

「バプシュカ」というのは元々、ロシアの農婦が首に巻いていた襟巻きを意味しました。それが転じて「おばあさん」となったようです。ちなみにロシアに「マトリョーシカ」という名の人形があります(ロシアこけしというべきか)。この人形は、いつも襟巻きをしています。

教皇庁文書は更に次のように記しています。

『旧ソ連の「バプシュカ」の事を聞かなかった人がいるでしょうか。どんな細やかな信仰表現も犯罪行為と見なされていた、あの長い間、彼女達は、キリスト教信仰を生き生きと守り続け、孫たちの世代にそれを伝えました。勇気あるこの「おばあさんたち」のおかげで、元共産主義体制の国々で信仰は全滅せず、今もあり続けています。』

私も、毎朝のミサに参加できるかどうか、不安でしたが、なんとか食らいついて行けそうなのも、この

ひとたちのおかげです。

最近帰天された國井健宏神父様に次のような言葉があります。

『共同体の助け 人間は弱いものですから調子が良いときがあれば悪いときもあります。信仰に燃えているときは、一人でも大丈夫と考えますが、信仰は一人では守ることができません。必ず試みの時が訪れ、弱くなるときがあります。……自分が燃えているときは、弱っている人を支えてあげるべきだし、……自分の信仰が誘惑、試みに遭っているときは、今度は仲間から支えてもらわなければならない、皆そういう弱い人間です』(「イエスを忘れないために……ミサ」27頁から)

池田教会の朝ミサグループは、わが教会のバプシュカです。わが教会の様々な活動も、このおばあさんたちの祈りに支えられているのではないのでしょうか。わが「バプシュカ」たちの活躍を、今後も切に期待します。



### わたしの好きな映画(2)

『阿修羅のごとく』(NHK 1979)

直

パー、パー、パ、パツパカ、パツパ、パー……  
オスマントルコ軍楽隊がかなでる摩訶不思議なメロディを覚えておいでか？ NHKで放映された『阿修羅のごとく』(原作・向田邦子)の主題歌として有名になった。もう40年近くまえ。

阿修羅像というと、興福寺のりりしく聡明な若者の姿を思いうかべるが、実はこの阿修羅、外観の静けさとは裏腹の心をもつとか。嫉みそねみ、他人の悪口を常とし怒りに身を任せることが多い

らしい・・・戦いを好む神さまという。外面と内面の落差が激しいのである。

阿修羅は主人公竹澤家の人びとの心に巣くっている。父(佐分利信)は20歳以上年下の中年女性と関係をもっている。外に女がいるのを妻(大路三千緒)は知っているが、家庭では良妻賢母を演ずるしかない。外には穏やかな表情を見せる妻の苦しみが哀れを誘う。

ふたりには四姉妹がいる。お花の師匠である長女(加藤治子)は未亡人だが、得意先の料亭の主とできている。次女(八千草薫)は亭主(緒形拳)が会社で秘書と怪しい仲なのを嗅ぎつけ内心穏やかでなく、独身の三女(いしだあゆみ)はすでにけっこうな年なのを焦り、四女(風吹ジュン)は売り出し中の若手ボクサーと同棲。互いの弱みをしている四姉妹はチクリチクリと相手をいじめ、また逆にいじめられる。

口数も少なく地味な父に女がいるのを知って、

四姉妹がどう反応するかが、見所のひとつ。寒風をものともせず、妻は女のいるアパートのまえを歩きつ戻りつし、あげく倒れて亡くなる。それを機に父は女と切れて四姉妹はようやく溜飲をさげる。

おわりには、それぞれが元の鞘に収まりメダタシ、メダタシという筋書きになっているから安心してみられるが、男と女のドロドロした葛藤が世代を超えて繰り返されるので見飽きない。いまは亡き佐分利信が、最近はいなくなった重厚でいふし銀のような父親を演ずる。八千草薫はお嬢さんのような若さ、池田出身のいしだあゆみは、彼女のふだんのイメージとは違って、けっこう嫌みな役をこなしている。

ごくありふれた平凡な男女の(ちょっと)怪しげなかわりが、向田邦子の都会的でさりとした筆によってにわかになんか動きます。凡夫としては佐分利信のようにならないよう、「われらを悪より救いたまえ」と祈るしかないのだが。

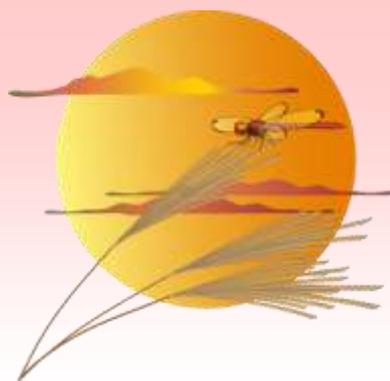
故國井健宏神父様を偲んで

師の遺す愛の教えや星月夜

白壁のクルスに散るや竹の花

秋立ちぬ亡き師は皆の内に生き

マリアクリスティナ



利き酒に杜氏の黙の深みたる

澄む秋の一直線の航路かな

テレジア

## 編集後記

「典礼聖歌388番を歌いましょう。」の言葉で始まる、聖書入門講座が旧司祭館の庭に面する和室で開講されていた。今思えば、國井神父様は池田教会へ主任司祭として来られてすぐの頃だったろう。

私は、ひよんなことから教会の門をくぐり、その時対応していただいた信徒の方が聖書入門講座のことを教えて下さった。何もわからないままの受講だったが、快く受け入れて頂きその後、受洗の恵みに授かり今日に至っている。

ミサ中「ガリラヤの風かおる丘で～」を歌うとき、今まで以上に熱い感情が込みあげてくるのは、間違いない。

天使の微笑

## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

10月 お休み

### ■ 週末黙想会

10月 お休み

### ■ 韓国語による聖書の勉強

10月31日(水) 10:00 ~ 15:00

指導：アンドリュー神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎797(84)3111

